

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	およその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
3	借金による経済的困窮で受診が遅れた右下肢壞疽の患者	70	男	夫婦と子ども世帯(子が18歳以上)		4人	持ち家		年金受給者		年金収入本人年金収入家族	20万円以上25万円未満	上回る	有		後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)		有	入院費を10割削免	その他	1ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因																			自治体等への働きかけ結果と対応	
	中断		病死																				

自當で建設業を営んでいたが現在は無職。妻、長男、次男と同居だが、長男と次男は無職。長男は仕事を転々としており就職しても長続きしない。次男は長年他県で独立していたが、2ヵ月前に借金を抱え帰省し同居している。近所付き合いはなかった。収入は本人と妻の年金のみ。本人の年金は一定額あったが、家計には入れておらず、妻は用途を把握していないかった。自営業時代の借金があつた可能性があるが詳細不明。そのため妻の年金のみで生活費を賄っており、収入以上に実生活は困難していた。

以前は糖尿病で他院に受診していたが2年前に中断。中断理由を本人に確認できなかつたため詳細は不明だが、妻は経済的理由と話していた。中断以降は服薬していない。

直近までADL自立で自動車運転も可能だった。入院1ヵ月前から下肢の脱力と変色があり、「字技を使用し何とか自宅内を移動していたが、数日で歩行困難となつた。その後、コタツに座りながら喫煙していた際に、タバコの火がコタツに引火し、右大腿に火傷を負った。火傷の処置は妻が自己流で処置をしていたが改善せず。病院に連れて行きたかったがお金がなく受診出来なかつた。それ以降、ますます費用が進み、右下腿も浅黒くなり、寝たきりの状態となつた。同居の長男は非協力的、次男は介護には協力してくれたが、金銭的な事情により受診を勧めることはなかつた。

その後、意思疎通もままならなくなり、本人の命の危険を感じた妻が別居の長女に相談。長女が自宅に訪問し、重篤な状態であると判断。長女が民主商工会の会員に相談し、当院で無料低額診療を実施していることを知り、長女から当院の医療相談室へ連絡が入つた。救急車で当院へ搬送してもらうよう長女へ案内し救急搬入。入院となつた。

検査と診察の結果、右下肢壞疽と敗血症の診断。救命のためには右下肢切断が必要だったが、未治療の糖尿病と大脳部に熱傷があり、手術をしても創治困難な可能性が高かつた。医師より妻と長女へ病状説明し、侵略的な治療は行わず、保存的に経過をみることになった。入院13日後に死亡退院となつた。

保険証も所持しており、収入は生活保護基準以上だったため、自治体への働きかけはしていない。

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	およその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
4	お金も無く、社会との関わりも死ぬまで拒否し、受診に至らなかつたケース	70	男	独居	元々は母親と2人暮らしであったが、亡くなり独居となる。市内に弟が住んでいる		持ち家	元々は父親の持ち家。	年金受給者	40代まで東日本で仕事をしていたとの情報あり。	年金収入本人	5万円未満	下回る		保険料	国保証	国保証	無	無		救急搬送		
	通院状況	通院状況詳細	死因																			自治体等への働きかけ結果と対応	
	その他	通院拒否	その他																				

両親と本人、弟、妹の5人家族。40代まで東日本で働いていたようだが、B市に戻ってきてからは母親の年金に頼りながら生活していた。40代まで母親と2人暮らしであったが、母親が亡くなり独居となる。社会との繋がりはなく、訪問しても家から出てこない状況であった。唯一市内に弟がいたため、訪問・見守りをお願いしていたが、倒れてしまい入院していた。ちょうど入院していた時期に弟が亡くなってしまった。

R6.0発熱・脱水症状あり、近所の方から救急車を呼ばれて救急搬送された。しかし採血、検査、診療の同意が得られず、別居の弟や妹の説得も聞き入れず自宅へ帰宅した。その後、病院の相談員から訪問依頼あり、訪問したが自宅から出てこなかつた。8月頃には、腹部が丸々と膨らんできつそうな様子があり。弟や近所の方が受診説得したが、「死ぬまで受診しない」と拒否見られ、受診に至ることはなく亡くなつてしまつた。

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	およその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
5	突然の症状から仕事へ行けなくなるも、連絡と移動手段、お金もなく、知人の訪問がなければそのまま孤独死していた可能性がある方。	60	男	独居	両親は20年前に他界。兄は5年前、弟は13年前に他界。	1人	借家アパート		非正規雇用	15年勤務。	就労収入本人	10万円以上 15万円未満	上回る	無	その他の健康保険	その他の健康保険		無	当時の収入からは適応外であった。	外来	1ヶ月	1ヶ月		
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）																自治体等への働きかけ結果と対応				
8	その他	胃癌終診	病死	A市内出身。3人兄弟の二男。幼少期は叔父、伯母含め10人で暮らしていた。父は當団地下鉄の整備員で単身赴任。中学校卒業後、家を出、職を転々としていた。約20年前に両親他界。13年前に妹が他界。同年、実家が海電で火事になり、伯母は伯母の子ども宅へ、叔父は兄の家へ引っ越し生活していたが、その後叔父伯母とも他界。兄は5年前でなくなった。現在のパート職は配達業であり、15年くらい続けている。自家用車を所持しておらず、40、50分かけて通勤。人間関係は恵まれ、入院中に相談に乗ってくれる上司、近所で知り合いになり、月に1、2回訪問してくれる知人がいた。また宗教に40代で入信した。母親は10歳から入信。宗教を通じて2、3年付き合いのある知人もいる。																				
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）																自治体等への働きかけ結果と対応				

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	およその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
8	低年金のため受診困難だったとみられる患者。限界まで自宅におり入院されたと思われる。	70	男	独居		1人	借家アパート		年金受給者		年金収入本人	5万円以上 10万円未満	下回る			国保証	国保証		無	有	入院日より適用	救急搬送		3ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）																自治体等への働きかけ結果と対応				
8	その他	通院なし	病死	A県の市出身。父は日雇い労働者で大酒家だったとのこと。「きつい仕事をだからお酒も飲みたくないよね」というとうなづいておられた。両親はすでに他界。兄弟がいるが良いことあつてないとのこと。結婚歴、子どもなし。高齢事業まで併住在で、高齢後状況、送金状況などで働いていた。その後A市に転居。約2年前よりA市に転居し現在のアパートで暮らしている。職場の元同僚の一人が「お本人を気にかけていたさついたが、その外は頼れる人はいない様子。『緊急連絡先になれる人はいますか?』と尋ねたところ、自を裏うきにして何かを言おうとしていたが話題取れなかった。																	社会福祉課へ亡くなられた場合の対応を依頼した。			
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）																自治体等への働きかけ結果と対応				

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
10	孤立と貧困が生み出す 独居高齢者の手遅れ死亡事例	80	男	独居		1人	持ち家	20年前に中古の一戸建てを購入していた。	無職		年金収入本人	55万円未満	下回る	無		後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)		無		民生委員、他事業所からの紹介・転院	1年	2ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因																			自治体等への働きかけ結果と対応	
	その他	不定期に色々な病院で医薬、安定期処方してもらっていた	病死																			・生活保護にはならなかったので生活福祉課への連絡はしていなかった。 ・地域の地域包括支援センターの介人(独居、身寄りなしの生活環境から)があつたかどうかが確認したが、特に支援体制はなかった。	
13	お金の心配があつて、治療を中断していた膀胱がん患者	60	男	その他	弟と同居	2人	持ち家	親の代からの築60年の持家だが土地は借地	非正規雇用		就労収入家族	25万円以上	上回る	有		その他の健康保険	その他の健康保険		有	生活保護基準の140%以下	他事業所からの紹介・転院	2ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因																			自治体等への働きかけ結果と対応	
	中断																						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
14	他院入院時に生保申請困難と認明を受け、その後相談ができなかった大脳癌患者	60	男	独居			借家アパート	アパート家賃滞納なし 生保基準内の金額家賃	無職		年金収入本人	10万円以上 15万円未満	下回る	有		国保証	生活保護	無	無		外来	不明	5ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）						事例について（受診後の経過と転機）										自治体等への働きかけ結果と対応			
	その他	必要時救急外来受診していた。 定期受診なし	病死		2024年5月に自転車で転倒し、救急車で他院に救急搬送となる。内臓出血で開腹手術を行う。その後に大腸癌と指摘をされるが通院ができないと放置していた。ステージIVの診断されていた。(都合状況ではなく、本人のため正確な受診記録は不明。) 厚生年金生活保護制度の申請と検討しているが年金があるため申請が遅らないのではなく、かのうの診断で申請せずに入院料も未納となっていた。 当院では2006年より受診履歴があるが、必要時に救急外来受診する程度で定期的な受診歴はない。 2024年8月22日の2時に胸の痛みと腹部痛で救急外来受診される。経済的な不安を訴えていたため日中帯に再び8月23日に受診。8月22日に受診、外来医師が経済相談についてMSWに相談を促す。経済的な相談は前医でも相談にのっていたが解決できないといわれていると当院MSWへの相談を悩み、コロソフロフエンの痛み止めのみ処方してもらい帰宅となる。 2024年9月21日に再度疼痛の訴えで救急外来受診となり、処方では痛み改善しないため入院加療にてMSW介入となる。 疼痛強く入院後はせん妄もあり、生育歴や職歴等の聞き取りできず。	9月2日0時頃の救急外来にてMSW介入となる。厚生年金15万円の収入あり、残金は2万円である。本人は生活保護の申請の希望と疼痛改善にて入院希望あり。入院と同時に生活保護の申請を行う。疼痛コントロール目的で麻薬や鎮痛薬の開始となる。疼痛やせん妄の症状あり、ベッド上で会話困難などときも多々あり。生活福祉課にて本人の意向調査を行い、9月19日生活保護決定となり本人に伝えるが症状悪化にて入院状態で理解できかた不明。翌日9月20日に死亡。	入院と同時に生活保護制度の申請を行い受給決定となる。																	
事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
17	金銭管理の苦手さゆえに家族との関係が希薄となり孤立。救急搬送時には手遅れであった青がん患者	60	男	独居		1人	借家アパート		正規雇用		就労収入本人	20万円以上 25万円未満	上回る	有	保険料住民税家賃	その他の健康保険	その他の健康保険		有	次女が知っていた。 入院中に発生した費用の全てを適用	その他	6ヶ月	1ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）						事例について（受診後の経過と転機）										自治体等への働きかけ結果と対応			
	その他	通院なし	病死		自宅で消火器・呼吸器症状があり、体動困難となっているところを次女が発見し、救急要請・入院となつた。かねてから金銭問題を抱えており、次女は事前の情報収集で当院で無料低額診療事業を行っていることを知り、当院への搬送を希望された経緯がある。 次女によると、本人は若年の頃から、金銭管理に課題を抱き、各所への借金・滞納があり、それが原因で夫と離婚し、長女からは関わるのを拒否されている状況であった。稼働収入はあるが、多くは借金の返済に充てられ、加えて入院2か月ほど前からは、体調不良が原因と思われる無断欠勤をするようになり、収入に至つていた。	本人との疎通は困難であり、次女へ上記事項を聞き取ったのみで、本人は他界された。	特記なし																	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	およその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間																						
18	無職・無収入で受診中断していた糖尿病患者	40	男	二世帯 三世帯同居	母、兄、甥、本人	4人	持ち家		無職		就労収入家族年収収入家族	25万円以上	上回る	有	保険料	国保証	国保証	無	有	入院・外来ともに無料低額診療事業にて一部負担金の全額免除適用となっていた時期あり。	救急搬送	7ヶ月	12年8ヶ月																						
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）						事例について（受診後の経過と転機）						自治体等への働きかけ結果と対応																												
22	中断	同法人Bクリニック通院中	病死	父他界、母、本人、兄、甥（引きこもり）の4人暮らし。姫姫歴があり、3人子供がいるが離婚後実家暮らしとなった。2012年1/16口渴を主訴にA病院受診。糖尿病が指摘され、同法人のBクリニックへ紹介受診となつた。自動車部品を扱う会社で17年常業歴をしていたが、当院に初入院となる2022年7月の前月（6月）に退職。その後は受診中断がとなつた。しばらく無職の期間が続き、税金、国民健康保険料、年金保険料、携帯電話、医療費等の未納が多額になつていて、2024年1月～キッチンカーナのアルバイトを始める。2024年5月～派遣で製造業の仕事に就くが1ヶ月程度で退職し、また無職の状況となつていていた。																																									
				2012年1月の初診時以降入院もなく、受診やインスリン注射治療もきちんと行い体調維持されていた。受診は仕事後、夜間外来に通院されていた。2022年7月の入院時は離職後で保険証がなかったが、協会けんぽの任意継続手続き中であった。当面は退職金や雇用保険の失業手当を受給して生活していたが、この頃から外来受診は中断がとなつた。2022年12月に再入院した時には無保険となつていて（保険料が高くて支払えなかつた）。無料低額診療事業申請を提案するが申請されず。入院日に母や兄の扶助で国保が入された。受診はその後も来院、中断を繰り返していた。2023年3月高齢からの除院によるCOPAで他院へ搬送入院となつた。無事蘇生し状態安定化したため2週間ほどで退院された。このことをきっかけに兄がローラーを組み、本人の保険料等の多額の未納金を一括返済した。その後も受診は来院、中断を繰り返していた。2023年9月高血糖緊急症にて再入院となり、生死を彷徨う状況であった。1年以上無職の状況が続いており、家族も上記ローラーもあり医療費の支援ができないと訴えがあったため、無料低額診療事業の申請を再提案。申請に至つた。社会資源や適用できる制度もなく、就労支援を得ることが医療を受けるための策であったことから、就労支援についての窗口を提案するが利用されず。一旦一人で転居して生活保護申請、受診を継続しながら体調を整え就職先を探すことを提案したが希望されなかつた。その後友人からの紹介で見つけたアルバイトが軌道に乗った時期があり、数か月続いたが未だ就職できず受診中断していた。Bクリニックからもたびたび受診に来るよう連絡をし、関わりは続けていた。2024年9月糖尿病性ケトアシドーシスで再入院、容急変更し心臓マッサージ・肺管処置がされ、一時に心拍再開はしたが、同日に亡くなつた。																																									
				7月22日に無料低額診療事業対象診療所を受診、入院での終末期療養を希望されたため、同日当院へ紹介入院となつた。紹介時予後数週間の見込みであった。家族との関わりはもともと希薄。ただ本人がハイクア事故を起こした際の費用や当時飼っていた猫の治療費や生活費を姉が支援した経過あり。姉が本人宅を訪問した際に、金銭面も含め口論となつてしまつた。さらに関係は悪化していたと姉は話す。本人より自宅退院や通院希望の際はかたが、住環境も踏まえ姉妹からは自宅への外出の許可は得られない。それに影響してか食欲低下や疼痛も増していた。疼痛に対しては麻薬で対応。自宅に戻れないならは、せめて姉輩と1本吸いないと本人より希望あり。姉妹からは「おまが好きだったから飲ませてあげてはとの提案もあり、当院職員同僚のものと外出し、姉輩とビールを嗜んだ。その5日後にご逝去された。																																									

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	およその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間		
22	通院を自己中断し適切な医療が受けられていないかった胃癌患者	70	男	独居		1人	持ち家		年金受給者		年金収入本人	55万円以上 10万円未満	上回る	有	水道料金 電気代 ガス代	後期高齢者医療 (1割)	後期高齢者医療 (1割)		有	低額10割	地域包括支援センター、 民主委員会	0ヶ月	4ヶ月		
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）						事例について（受診後の経過と転機）						自治体等への働きかけ結果と対応								
22	中断		病死	A県で7人兄弟の5番目として生まれる。A県の高校を卒業後、B県にて就職。その間、反社会的暴力との間わりがあり麻薬関連で警察が介入した経過もある。40代で自己破産。母が亡くなった数年後にA県へ戻り、空き家となつた実家で生活するようになる。自己破産しているため返済義務はないが、返さなければならないものは返すといつていから返済していたよう。2023年9、10月頃に本人が食料を求める、フードバンクに自ら寄付する際に「回数券」の形で食料を配給していただけた。同年11月、本人のみでまつは生保申請書も受理となつた。フードバンク職員同僚のもと2回目の申請書を提出させたが、生活保護受給者登録（詳細不明）、50万円程度を履歴の欄に記載したが、本人月々の生活費を5万円とし、年間生活費を50万円とし、年間収入が50万円とし、年間支出が50万円とし、年間差額が0と記載してある。2024年1月に年金受給者が通院する毎月1人月の生活費を5万円とし、年間生活費を60万円とし、年間収入が60万円とし、年間支出が60万円とし、年間差額が0と記載してある。その際に胃癌との診断がついたが、種種の方法で希望はなく、通院を自己中断してしまつた。同年5月、地域包括支援センターに民生委員より、通院が悪そうだとどう対応すれば良いか分からず、訪問に問題してもらえないかとの連絡があり、連絡から介入開始。地域包括支援センターの職員、民生委員や友人が受診を促していたが本人拒否。同年6月半ばにはまことに腸がやられていたためとにかく受診をするよう伝え、民生委員付き添いのもと同年7月22日に無料低額診療事業対象診療所を受診。																					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
24	医療費未納が続いている、支払い困難なため受診が遅れた外来通院患者	60	男	その他	本人夫婦、成人の子ども、小学3年生の子どもの世帯	4人	持ち家		自営業、年金受給者		就労収入本人 就労収入家族	25万円以上	上回る	無		その他の健康保険	その他の健康保険	無	無		地域包括支援センター、救急搬送	0ヶ月	0ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）											事例について（受診後の経過と転機）				自治体等への働きかけ結果と対応			
	治療中		病死		他院で2008年頃に高血圧の診断を受けるが、医療費の支払いが困難なため受診を中断していた。また、不眠症など他疾患も中断。2018年9月5日に当院を受診し、本人より無保険のため無料低額診療事業の相談が入る。本人の年金収入・農業収入・妻の就労収入は、無料低額診療事業の基準を上回るため短期保険料を発行して貰い、他院へ転院。2020年に受診を再開されたが資格者証に切り替わっていたため、妻の保険に入るよう提案。その後は予約日に来院しないこともあるが、協会けんぽ（扶養）で受診を継続していた。	他国籍の妻、長女、小学3年生の次女の4人暮らし。妻との会話を拒絶する様子があり、金銭面（食費や光熱水費など）は全て本人が負担をしている。時期や詳細は不明だが、受診時は1,000円のみの支払い。未納分は、9月頃に農業収入で支払いをしていた。	受診後、中心静脈カテーテル挿入・酸素使用し治療を開始する。家族へ病状説明を実施し、積極的治療を希望すると確認。その後も状態は安定せず、酸素1L使用・血圧60台へ低下。集中治療が望ましいとの判断があり、他院へ搬送。2月12日に、他院にて敗血症性ショック、急性腎発作にて亡くなられた。																

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
30	治療してほしいとの思いはありつつ、病院に行くことを強く拒んだ患者	60	男	独居			持ち家		無職		年金収入本人				保険料	国保証	国保証		無		救急搬送		
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）										事例について（受診後の経過と転機）				自治体等への働きかけ結果と対応				
	中断	2022年11月8日 他院初診。 以後通院していたが、透析導入の話をした2024年2月より中断。	病死		A県B市出身。2021年頃火事にあり、A県からC市へ父と一緒に転居。A県にいるときは、魚の市場で働いていたが、C市にきてからは仕事をしていない。父ともに亡くなり独居。しばらくは火災保険の保険金で生活していた。叔父が同じ市内におり、交流はある。他病院に通院していたが（初診：2022.11.8）、透析導入の話をしたときから、中断（2024年2月）。叔父叔母が病院に行くことを促しても行かず。叔父たちへ、お金がない、水道が止められたと話をしてくることがあった。2024年9月路上で転倒し、休勤困難になっているところを通行人が発見。救急要請。搬送時本人拒否あるも説得し、搬送。しかし、治療を拒否したタクシーにて帰宅。翌日再度、外來NSから連絡し、訪問の許可あり。外来看護師長・外來医事務職員・MSWで自宅へ伺うも、受診拒否あり。同日午後、D・外來師長・MSW・地域の保健師にて再度訪問。何とか説得と救急隊の協力も得て搬送に至る。		搬送後、入院となり緊急透析開始。2024/9/27朝、心肺停止・呼吸停止状態で発見。急性心不全にて死去。		保健師へ介入を依頼、搬送の協力を得た。														

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低通用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間				
32	転居のため無料低額診療事業が利用できなくなり、医療費の不安から治療を中断した大腸癌患者	50	男	夫婦のみ		2人	社宅		その他	特定派遣	就労収入本人就労収入家族	25万円以上	上回る	有	住民税	その他の健康保険	その他の健康保険		有	他県の民医連事業所からの紹介	救急搬送	不明	2年7ヶ月				
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）								事例について（受診後の経過と転機）								自治体等への働きかけ結果と対応						
	中断	2022年3月K病院受診し、手術	病死		A県生まれ。高校卒業後地元で就職、結婚し2子を儲けたが離婚した。離婚後、実子との関係は断続している。離婚後は職業、住居を転々とし、B県で後妻と知り合い再婚した。後妻の実家の事業を手伝っていたこともあるが親族との折り合いが悪くなりB県を出た。後妻の親族とも絶縁している。本土に戻り特定派遣事業者に雇用され工場への派遣労働に従事した。C県、D県、E県、F県、G県、H県、I県と派遣期間が満了することに転居を余儀なくされ、また、仕事がない時期もあったため借金があった。H県J市に住んでいた時に腹部膨満感を自覚したが、コロナ禍で就業時間が減って給料が減少しており、治療費の不安から医療機関への受診を先延ばしにしていた。2022年3月に無料低額診療事業を実施しているK病院を受診し大腸鏡検ステージ3と診断され手術を受けた。その後、無料低額診療事業を利用し化学会員法を行っていたが2024年10月にI県J市に転居が決まったため治療を中心とした。無料低額診療事業を実施しているJ県内の医療機関への紹介も受けたが対象となるかどうか不安だったため受診しなかった。2024年12月にM県N市に転居した。治療が中断していることを心配したJ県のM市からおなじ民医連で無料低額診療事業を行っているN病院を紹介され、N病院の初回受診となった。								2024年3月2日に0病院に初回受診となった。債務を考慮して無料低額診療事業の対象とし、一部負担金の減免を行った。本人は治療と就労を継続して生活を立て直すことを希望していたが、6月に入って病状が悪化した。体調不良で欠勤が続き、派遣先から就業が継続できないといわれたため退職した。化学会員のレジメンを変更して再度治療を強化しようとしましたが、8月に全身状態が悪化しており積極的な治療ができなくなってしまった。疼痛、呼吸苦が強まり9/11に入院し、治療を行ったが9/22に死亡した。								9月に入り、居住地の福祉事務所に生活保護の相談を行った。福祉事務所からは妻が就職活動をする前提で生活保護申請することをすすめられた。しかし、妻は本人の死期が迫っており、本人のそばにいたいので就職活動が困難だと考えて生活保護の申請を辞退した。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低通用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間							
36	無収入のため、母の年金だけで生活をし、適切な治療ができないかった患者	50	男	その他	母と二人暮らし	2人	借家アパート	持ち家ではあるが、地代を払っている	無職		年金収入家族	15万円以上 20万円未満	上回る			国保証	国保証		無	無		外来	不明	7ヶ月						
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）								事例について（受診後の経過と転機）								自治体等への働きかけ結果と対応									
	治療中	痛風で整形外科フォロー中。内科は受診していないかった。	病死		生育歴は把握出来ず。20年前に父が死去し、その後から無職となり、自宅でひきこもり生活をしていた。同居母の通院送迎、買い物の手伝いはしていた。自宅では大好きなプラモデル作成をしていた。自身に収入はなく、母の遺族年金で生活をしていた。								内科疾患（高血圧、脂質異常症）はあったが、内科受診希望なく、7年前からの痛風のfollow upで当院の整形外科受診を行なっていた。その後、レントゲン、CTを施行し、横行結腸癌の指摘。外科受診後、大学病院を紹介。大学病院で人工肛門造設、化学療法の提案をされたが、本人は「袋を付ける事になるのは日常生活に支障があるので、どうせ長生きされないだろうから何も治療しない」と拒否され、家族も交渉から相談。当院でできる治療をしていくと同意を得る。2月から3月にかけての整形外科受診時に受けた胸部レントゲンで肺の影があり、翌3月5日大腸がん肺転移を疑った。確定診断が出てから、定期通院を行ない、6ヶ月後に病状悪化し、食事摂取ができず、当院へ入院となる。一時、自宅退院できるレベルにはなったが、「家族に迷惑をかけるから」と本人の意向があり、断念。当院で看取り対応していくことになった。								内科疾患（高血圧、脂質異常症）はあったが、内科受診希望なく、7年前からの痛風のfollow upで当院の整形外科受診を行なっていた。その後、レントゲン、CTを施行し、横行結腸癌の指摘。外科受診後、大学病院を紹介。大学病院で人工肛門造設、化学療法の提案をされたが、本人は「袋を付ける事になるのは日常生活に支障があるので、どうせ長生きされないだろうから何も治療しない」と拒否され、家族も交渉から相談。当院でできる治療をしていくと同意を得る。								世帯収入、自動車の持つこともあり、生活保護の利用は検討していなかった。	

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
42	生活保護の利用が出来ず、治療を諦めた胃がん患者	50	男	独居		1人	持ち家	月々2万円の住宅ローン	非正規雇用		就労収入本人	55万円以上 10万円未満	上回る	有		国保証	国保証	無	有	4/2外来受診、 4/3に入院。 無低は 4/2の1日間。 4/3以降は 生活保護利用。	その他	不明	2年10ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）						事例について（受診後の経過と転機）						自治体等への働きかけ結果と対応						
	中断		病死		2024年3月、他県に在住のSNSで交流のある知人から、本人ががん治療を経済的困窮で中断して体調悪化している電話相談がある。 2021年7月に他院で肺がん（ステージIV）の診断を受け、抗がん剤治療が開始となる。経済的困窮のため治療が中断が多くなる。負債があり生活相談サポートセンターに相談し破産手続きをしていた。2023年1月には生活保護申請相談に行くが收入があるため申請受理されなかつた。2024年2月には喉の痛みが強くなるがタクシードライバーの仕事を始めた。3月には食事が喉を通りず声も出にくくなり、仕事ができない医療費が払えなくなり治療を諦めている。 4月1日、地域福祉室から訪問するも会えず、無能説明や生保申請支援が出来ることなど書いた手紙を残した。4月2日、再度訪問し本人と会うことが出来たが、るい復が激しく憔悴しきっていた。当院の受診を勧め受診。4月3日の入院となる。						2024年4月2日、受診。4月3日に入院、同時に生活保護申請を行う。入院中は疼痛緩和され5月15日に自宅退院、退院後は訪問診療と訪問看護を利用。6月3日に緩和ケア目的で入院、6月15日に永眠された。						4月2日の受診時に電話で生活保護申請を行ったが、市の対応は来所での申請が基本と申請を受け付けられなかつた。4月3日に入院となり、入院中であれば来所が出来ないので申請受理となつた。申請には病状と就労困難な状態を説明した。						
43	生活困窮の支援につながれず、受診が遅れた肺がん患者	60	女	独居		1人	借家アパート	民営の借家と飲食店用物件を借り上げていた	年金受給者		年金収入本人	55万円未満	下回る	無	保険料 家賃 水道料金 電気代 ガス代	国保証	国保証	無	有	当院において、 R5年9月の入院費について適用		3ヶ月	7ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）						事例について（受診後の経過と転機）						自治体等への働きかけ結果と対応						
	治療中		病死		【生活歴】A県B市に生まれた。同族3人第1子。就学を前に母に捨てられ、父と弟たちと生活してきた。中卒で就労初めて、15歳ごろで県内のバスの乗務員に就職。その後、縁故でC地方の観光会社に転職。20歳ごろには県へ帰郷し、喫茶店で働いた。18歳で結婚。結婚後も事務員で会社勤め。20歳で長男、21歳で次男を授かった。H22年頃までの10年間程、娘の介護生活が続いた。その後、夫婦は就労不安定で年金をうつすものもあり、夫は飲食店で営業、妻が主夫となっていた。夫はH11年5月死去。夫の死の影響で夫のオフィック閉店。H4年4月頃生活保護相談したところ給付金軽度額化され受給。それを手に同年9月に新たにオフィックを開店。経営状況はあまりよくなかった。息子等から借金をもち、友人からの寄付でやり直していたよう。金銭のことでは、次男とはやや関係性の悪化があったよう。 【受診までの経緯】R5年6月ごろへ体調不良出現、経済的不安のため受診控え、体調不良で店は営業できず、ほぼ就労收入がなくなった。年金のみでは生活困窮してさらに受診がおくれた。同年9月6日肺炎で近医初診、投薬で経過観察していたが、軽快しないため同年9月19日当院紹介予定となっていた。						R5年9月20日、自宅で体動困難となり、救急搬送され肺炎で当院入院。経過良くなく、肺がん疑いとなり、高度医療機関への転院方針となった同年9月29日、本人から入院について相談希望あり、R5年10月1日、長男は本人に協力的だったが、生活費、施設費すべての支援は困難だと述べたよう。本人も迷惑をかけたくなかったよう。限度額認定申請、療養費、無料低額診療利用となつた。翌日9月29日、高度医療機関へ転院。R5年10月1日、生活保護申請して後日転院。高度医療機関へ転院後、同年12月12日、社会的調整目的で当院へ再転院。介護保険サービス導入して自宅退院。1月15日、精査の結果を受けた治療方針決定のため、高度医療機関へ受診および入院。そこで、肺がん増悪により全身状態悪化のためR5年1月22日死去。							生活保護申請意思の有無を答えた。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間			
47	多額債務で收入を超える返済があり、医療費支払い困難にて無料低額医療にて緩和ケア病棟で最期を迎えた事例。	60	男	独居		1人	借家アパート		非正規雇用年金受給者	傷病手当金	就労収入本人	55万円未満	下回る			国保	国保				不明	1年				
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）								事例について（受診後の経過と転機）								自治体等への働きかけ結果と対応						
	中断		病死	定年退職後、2024年2月まで転職をされていた。昨年末に呼吸困難感強くなり、精査で肺がんがみつかる。3月～入院中。年金（約5万円）+扶養代（約10万円）の収入あり。								経和ケア病棟へ2024.8～入院後特定疾患医療証が使えないためすぐに無低申請を行った。傷病手当金の申請も行っていた。								ハイを辞めたため年金のみになるので生保申請も相談して行ったようだが、「2月分の給料が3月に支払われると思うので、それ以降に再度申請して下さい」と言われた様子。自己破産手続きを決めたが、短ければ月の返済もそのままにしておこうかと思っていると、知人女性にこれ以上負担をかけたくない。また家賃も高額であり、退去したいが住所がおけないのでそのままにしていると、前医で予後が短いことは聞いているがなぜかそれより長くなっていると。余命について把握した上でできることを考えていきたい						
				知人の女性が毎月家賃の立て替えを行っていた。本人には姉と、他県に兄がいる。面会に来られていたが、本人が借金のことは一切伏せておられた。亡くなった後の兄夫婦が借金問題を知ることになった。A市の姑がアパートの保証人になっているが、姉は高齢で金銭的に余裕がないようで本人にお金を借りに来ていたこともある。																						
事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間			
48	年金・生命保険もなく、医療費の不安が大きく、受診が遅れた肺がん患者	70	女	その他	娘 孫	3人	借家アパート		無職	無職で年金なし	就労収入家族その他	20万円以上25万円未満	上回る	有	保険料	後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)		有	医療費食事代	救急搬送	2ヶ月	1ヶ月			
	通院状況	通院状況詳細	死因	事例について（生育歴、職歴、受診経緯）								事例について（受診後の経過と転機）								自治体等への働きかけ結果と対応						
	その他	なし	病死	A市出身。これまでかかりつけなし。仕事が長く続かず骨を転々。最後は花屋のパートを70歳頃までしていた。元々お酒好きで朝から晩まで飲酒。機嫌悪い時は家の中で物を壊したりもする程。道路上に大の字になって寝ていたり、子どもを置いてどこかに行ったり、結婚および離婚歴3回。こどもは1人目の夫との間に3人、2人目の夫との間に1人（同居の次女）。次女以外は全員疎遠。入院前は、本人が無年金につき、次女の勤労収入と、孫の児童手当および児童扶養手当を元に生計を立てていたが、年金、生命保険もなく経済的理由で受診を控えていた。入院の1週間前より食欲低下が悪化。改善が見られないことから、2024.4.2 家族が救急要請し、搬送。入院となった。								肺がんおよび、肝臓・副腎・リンパ節・頭蓋骨にも転移をしている状態。進行がんで根治治療ができる、抗癌剤や放射線治療も体力や全身状態ではリスクが高く、治療する事でかえって状態悪化を招く状況。本人家族に説明がおこなわれ、今後は絆と医療を進めることができ確認された。その後2024.4.23療養型病院に転院。一旦療養病棟に入院し、5.7に緩和ケア病棟に転機。その後も全身状態は徐々に低下し、2024.5.16に永眠。								特になし						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額(手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
54	食欲不振の症状が出たとき 「C」 後期高齢医療保険を所持していたが、医療機関に受診せず 救急搬送されたときにがんと診断され、入院後1ヶ月で亡くなられた患者	80	男	独居		1人	知人宅	3年前に1人暮らしをすることに嫌気ががさして家を出る。知人宅に居候していた。	無職		年金収入本人	5万円以上 10万円未満	下回る	無		後期高齢者医療(1割)	後期高齢者医療(1割)	無	無		生活困窮自立支援センター、地域包括支援センター、他事業所からの紹介・転院	2ヶ月	1ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細	死因		事例について（生育歴、職歴、受診経緯）							事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断、その他	今回の疾患に関する症状が出たときに受診はしなかった。	病死		<p>妻はいたが10年ほど前に脳梗がんで死亡。息子がいるが、妻が亡くなった後息子との関係性が悪くなり、妻の49日法要を最後に息子とは会っていない。息子の住所は分かっている。3年前ほど前に一人で住んでいくことに嫌気ががさして借りていた部屋を出て、路上生活をした。その後、その時に知り合った知人宅に借りりした。</p> <p>病歴としては、高血圧、糖尿病、肋間神経痛、閉塞性下肢動脈瘤があり、虚血性心疾患疑いで2022年10月にA病院での受診歴があった。</p> <p>A病院の受診半年前から食欲不振あり。2ヶ月前から、食事量低下、しんどさ強く、寝ていることが多い生活となつた。症状が出現した後、医療機関にはかかっていない。5/18前胸部痛があり、A病院へ救急搬送された。A病院で、類基底細胞癌型扁平上皮癌と診断。PS=3~4であり、化学療法の実施は困難と考えられ、ご本人と相談してBSSの方針となった。</p> <p>以前生活保護を申請した際に、10円単位で却下された経験から、本人はA病院入院時は生活保護申請を希望されなかった。そのため、当初、永眠された場合は、墓地埋葬法を利用する方向で生活支援課とA病院は相談していた。6/4以後の支払や転院の可能性について、A病院のMSWが再度本人と相談したところ、本人より生活保護申請の希望があり、同日付で申請となつた。今後の緩和治療のため、当院のホスピス病棟へ転院相談があつた。</p>							<p>6/7ホスピス面談でA病院に訪問。本人、A病院のMSWと面談し、本人の意向、制度利用の状況や経済状況、家族関係について、情報共有した。本人は「家もない、家族もいない状況で受け入れてくれるんですか？よかったです」と話されていた。</p> <p>本人は入院中に息子への連絡を希望し、息子へ手紙を送ったが、返信はなかった。</p> <p>病気について「肺癌と言われた。治るならば治療してもらいたかったが、これでダメになるなら穏やかに自分の人生を全うしたい。残り少ない人生。延命治療は一切お断り。」と話されていた。</p> <p>自身の葬儀や納骨、金銭管理に対しては、息子へお願いできたらという思いがあるが、家族関係が断絶していることから、行政に頼むかも少し考えたいと話されていた。</p>							当院では特にしていない。					